

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業) (案)

(別添1)

資料2-1

協議会名： 犬山市地域公共交通会議

令和8年1月 日

評価対象事業名： 地域公共交通確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A ・ B ・ C 評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等を記載】	A ・ B ・ C 評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
犬山市地域公共交通会議	栗栖・富岡線	コロナ禍以降、利用者数は徐々に回復傾向にある。高齢化や運転免許証自主返納等で需要の増加が見込まれる中で、今後は通勤・通学や観光客等、移動ニーズの多様化が想定されるため、様々な観点から更なる利用促進を図る必要がある。	A	利用者数【前年比:-110人】 R7事業年度:12,767人 R6事業年度:12,877人  B 令和5年12月の減便により、R5年度と比較すると微減した。しかし、買い物・通院等移動が必要な人の交通手段として一定の利用があり、また、紅葉期間には寂光院への観光客等により満車になる便もある。	【目標】 公共交通の総利用者数 11,680,000人/年 鉄道:名鉄各線の市内各駅乗降者数 路線バス:岐阜バス「リトルワールド・モンキーパーク線」「明治村線」 わん丸君バス:全路線 タクシー:犬山タクシー(株)の年間利用者数	
	上野線	【対応策】 ・岐阜バス「明治村線」減便により、通勤・通学に使用が生じたため、事業者協力型での公共ライドシェアの実施した。 ・運転手の労働環境改善の観点で、休憩場所やトイレの確保を実施した。 ・高齢者タクシー補助制度を段階的に拡充することで、地域特性(道路幅など)によりわん丸君バスでカバーできない地域の移動手段の確保を図った。 ・商業施設等と連携し、わん丸君バスにおけるデジタルチケットの導入した。 ・地域のニーズを把握するため、意見交換会や出前講座を実施した。	A	利用者数【前年比:+783人】 R7事業年度:18,496人 R6事業年度:17,713人  A コロナ禍や令和5年12月の減便においても利用者数は減らず、年々増加している。高齢化に伴う運転免許返納等により、買い物・通院等移動が必要な人の利用が増加していることが要因の一つと考えられる。	【目標に対する考察】 コロナ禍における減少率は約20%減でとどまり、コロナ禍においても移動が必要な人の交通手段として機能した。その後、徐々に利用者数は回復傾向に転じ、R5事業年度では過去最高の乗車人数となった(116,185人)。しかし、令和5年12月の再編における全路線減便の影響により再度減少に転じた(110,819人)。主に夕方の時間帯を減便したため、通勤・通学での利用者が減少したものと考えられる。 今後の継続運行実施のためにも、高齢化や運転免許証自主返納の動きにより需要の増加が見込まれる高齢者への対応だけではなく、通勤・通学や観光客への対応等、様々な観点から更なる情報発信や利用促進を図っていく必要がある。	
	今井・前原線	計画通り適切に実施された	A	利用者数【前年比:-872人】 R7事業年度:19,076人 R6事業年度:19,948人  B 令和5年12月の再編で、夕方の時間帯が減便となり、通勤・通学での利用者減少につながった。	R1.10～R2.9 102,547人 R2.10～R3.9 94,201人 R3.10～R4.9 102,701人 R4.10～R5.9 116,185人 R5.10～R6.9 110,819人 R6.10～R7.9 113,250人	
	楽田東部線		A	利用者数【前年比:+420人】 R7事業年度:6,079人 R6事業年度:5,659人  A 令和5年12月の再編で減便しているが、買い物・通院等移動が必要な人の交通手段として一定の利用があるため、前年比で増となつた。	【改善策】 ・地域ごとに移動特性が異なるため、わん丸君バス以外の選択肢について検討(調査・検討)する。 ・利用者だけではなく、担い手の確保も必要となるため、運転手不足解消に向けた取り組みを実施する。 ・商業施設等と連携し、利用者の利便性向上を図る取り組みを実施する。 ・時刻表・路線図の配布や広報掲載だけでなく、バスで行ける施設などを積極的にPRし、利用促進を図る。	
	善師野・塔野地線		A	利用者数【前年比:+913人】 R7事業年度:14,155人 R6事業年度:13,242人  B 令和5年12月の再編で、夕方の時間帯が減便となり、通勤・通学での利用者が減少した(R5事業年度:15,889人)が、高齢化に伴う運転免許返納等により、買い物・通院等移動が必要な人の利用が増加している。		
	内田線		A	利用者数【前年比:+571人】 R7事業年度:13,360人 R6事業年度:12,789人  A コロナ禍以降、観光客が年々増加しており、毎年1万人を超える利用がある。(コロナ禍以前は、約8,000人/年の利用であった。)		